

『人生の出会いの意味』について考える

順天堂大学医学部 病理・腫瘍学 教授
 順天堂大学国際教養学部 教授
 一般社団法人 がん哲学外来 理事長
 「明日を考える会 ～次世代の社会貢献～」
 会長 樋野興夫

敬老の日（9月18日）伊香保温泉 福一での『がん哲学外来 伊香保シンポジウム』に赴いた。

基調講演『原田明夫氏追悼記念～今、ふたたび伊香保温泉～』の機会が与えられた。翌日の早朝、伊香保温泉街を散歩した。「365の石段」を登りながら、1897年、日本が誇る国際人・新渡戸稲造（1862～1933）が保養した旅館を静思し、新渡戸稲造が、伊香保温泉の保養中に『農業本論』（日本初の農学博士取得）を書いたことは、想い出した。まさに、「人生は、もしかしたらこの時のため」を実感した。

思えば、2002年、原田明夫氏（元検事総長・東京女子大学前理事長）と「伊香保温泉 福一」で、新渡戸稲造の生誕140周年シンポを開催した。今回は、15周年記念ともなった。下記は、原田明夫氏から学んだものである。

- (1) 賢明な寛容さ (THE WISE PATIENCE)
- (2) 行動より大切な静思 (CONTEMPLATION BEYOND ACTION)

- (3) 紛争や勝利より大切な理念 (VISION BEYOND CONFLICT AND SUCCESS)
- (4) 実例と実行 (EXAMPLE AND OWN ACTION)

すべての始まりは「人材」である。

筆者の人生は、小さな村での少年時代の原風景、浪人生活での人生の出会い、学生時代の読書遍歴（内村鑑三・新渡戸稲造・南原繁・矢内原忠雄）、癌研での「病理学（吉田富三・菅野晴夫）、アメリカでの恩師『遺伝性がんの父：Knudson』との出会いが、根幹にある。まさに「人生邂逅」の「非連続性の連続性」である。

1860年代遣米使節団（勝海舟らがいた）が、ニューヨークのブロードウェイを行進した。彼らの行進を見物した詩人ホイットマンは、印象を「考え深げな黙想と真摯な魂と輝く目」と表現している。この風貌こそ『次世代の社会貢献』ではなかるうか。「時代を動かすリーダーの清々しい胆力」としての「人間の知恵と洞察とともに、自由にして勇気ある行動」（南原繁著の「新渡戸稲造先生」より）の文章が思い出される今日この頃である。

「はしるべき行程」と「見据える勇気」は、『次世代の社会貢献』の羅針盤となろう。

「決 断」

編集・発行人より（OCCカフェ スタッフ）

オーストラリアのホスピスで看護師をしておられたブローニー・ウェアさんは、死を迎える患者さんたちが最期に後悔している事を聞き取り、記録しました。その結果、最も多かった答えは「他人の期待に合わせるのではなく、自分に正直に生きる勇気がほしかった」でした。

私たちは、まわりの状況や時代に流されたり、特に、他人に嫌われる事を恐れ、自分が本当にしたいこと、しなければならぬ事をいつの間にか忘れていきます。

英語の decision（決断）には「切る」という意味もあります。必要なものを切り取っていく練習を積み重

ねていく事です。あまりにも見事なライオンの像に、「どうしたらこのような作品を作れるのか」と彫刻家に尋ねた時、「ライオンの特性以外のものは全部削り落としたからです」と答えたように……。

「なくてならぬものは多くはない。いや一つである」という言葉があります。あなたの人生の究極的な目的に焦点を合わせ、今、そのために何をすべきかを鮮明にしましょう。そのような決断（decision）が、あなた自身を育て、これからの時代に用いられる存在となるのです。

※ 新潮社「死ぬ瞬間の5つの後悔」より一部引用抜粋